



# 有限会社 キーポイントホーム

リノベーション

蛭名 正樹 様邸

ユーザー訪問

DATA

弘前市青山

2014年8月竣工

■延べ床面積/34.75坪(115.10㎡)

■使用青森県産材/スギ(床、内壁、天井、建具)など。

築25年になる自宅を、建て替えるか、リフォームするか——。蛭名正樹様(弘前市副市長)が考えの末にリフォームを選んだ理由は、家に刻まれた「思い出」であった。「この家には家族5人で暮らした思い出が染み付いているし、子供たちにしても生まれ育った家が建て替えられてしまえば寂しいだろうと思って」と、蛭名様ご夫婦はうなずき合う。それに、青森ヒバを多用して建てた家である。愛着あるヒバの柱と、家族の思い出を残し、新たに耐震や断熱・気密改修を加えて住宅性能を向上(リノベーション)させた蛭名様邸の「満足度」を取材した。

## 壊さず思い出を残す 柱だけを残し大改修

奥様の話 建て替えたほうが、あちこち手直しをするより、全部が新しくなるわけですから、

いつそ建て替えようといつて決めたときに、すぐ近所で、家の解体工事が始まったんです。そのお宅は、ちょうどわが家と同じ頃に建ったんですが、機械で取り壊されていく家が可愛そうになってきてね。もちろん人様には人様の考えがあるのだからそれはそれでいいのですけれど、解体の様子を見ていたら、なんだかわが家が壊されているみたいに思われて。家って、暮らした思い出が残っていませんでしょ。それが、箱でも壊すみたいに解体されるのを見て、壊さないって決めたんです。家の思い出は残そうって。

ご主人の話 だんだんに隙間

風とか冷気が身にこたえるようになってきましたね。断熱材は入っていたはずなんです、



リノベーションの仕上がり具合に大満足の蛭名ご夫妻

床面が冷や冷やしたり、玄関の冷気が入ってきたりして、それで直そうと考え出したんです。阿保勝之社長の話 床にも壁にも天井にもグラスウールは入っていましたが、問題は、施工方法ですね。隙間があったんで



リビングの床・天井・取付の建具にはスギが使用されている。壁面に設けた飾り棚のような箱は5匹の愛猫のキャットウォーク

す。床と壁との取り合い部分、つまり床タルキに入れた断熱材と壁に入れたグラスウール断熱材の間にわずかな隙間があつて、そこから床下の冷気が入り込んでくるわけです。今回その隙間はすべてしっかりと断熱材を充填して塞ぎました。

——キーポイントホームのブログに、蛭名様邸の改修は「リノベーション」と書かれていました。

阿保社長の話 一般にリフォームとは、室内の内装を張り替えたり外壁の化粧直しなど主に目に見える部分を直すのに対し、「リノベーション」は、建物の基本性能（構造・断熱など）にまで踏み込んだ大掛かりな改修工事です。蛭名様邸は、まさにリノベーションで、耐震や断熱・気密改修のみならず、給湯や冷暖房も都市ガス・ヒートポンプ電化を併用した最新の省

エネ設備機器を設置しました。灯油よりは将来的に価格変動が少ない都市ガスを採用したのは、光熱費の「燃費」を良くして、快適な暮らしを送ってもらうためです。ランニングコストが抑えられてこそ生活は快適ですから。

**スギは弘前の地域資源  
伝えたい温かな良さを**

ご主人の話 この土地は県住宅供給公社の分譲地で、当時、青森県産材を使って建てた



木の温もりに包まれたリビングは、ご家族の癒しのスペース





スギに囲まれた木の空間は、山小屋のような自然の安らぎを感じさせる

家は利子補給が受けられるという特典が付いていました。それで、柱はすべてヒバ、外壁のバラ板とか和室の畳の下地材などもヒバを使用したと聞いています。

**阿保社長の話** 間取りが大幅に変わったため、今まで間仕切り立っていたヒバの柱を何本か抜きましたが、抜いた柱は、1階のリビング・ダイニングの軒を延ばした下屋の桁として再利用しました。合板だと25年も経てば傷んで使えませんが、無垢材はいかようにでも再利用できます。捨てる場所がないのが本物の木の価値ですね。

**奥様の話** 新聞のチラシを見てキーポイントホームを知りました。弘前市泉野に展示場がオープン(2012年)した、という案内でした。見学に行つて、スギと出会ったんです。スギの良さですね。足裏から伝わってくる床板の柔らかさ。床暖房をしているみたいに温かく感じ



扉を開け放すと大きなスペースとなる2室の洋間



白い壁と木目のコントラストが美しく調和するキッチンスペース

られるのは、保温性が高いスギの特性だと、そのとき初めてお会いした阿保さんが説明してくれました。

**ご主人の話** 帰宅して、リビングのテーブルに座ると、ほっとくつろげるんです。正面のテレビボードの壁面がスギだし、天井にもスギの羽目板が張ってあるし、木に囲まれた空間に癒されるんです。銘木のヒバとはまた一味違って、スギの赤味はどこか親しみある味わいがあります。

スギは弘前の山にも沢山育っていますし、地域の資源として大いに活用していかなくちや、と思いますよ。これから家を建てる方々にスギの良さをどんどん伝えていきたいものです。

**【間取り】**1階はLDKと、主寝室。水回り。リビングの壁面に設けた飾り棚のような箱は5匹の愛猫のキャットウォーク。2階の洋間2室は、同居する娘さん夫婦の居住スペース。



有限会社 **キーポイントホーム**

弘前市泉野3丁目11-11  
TEL.0172-88-7705 FAX.0172-88-7706  
<http://www.ki-pointhome.com/>  
E-mail : staff@ki-pointhome.com





# 有限会社 キーポイントホーム

有田 様邸

ユーザー訪問

DATA

弘前市城西

2014年10月竣工

■延べ床面積/41.12坪(136.21㎡)

■使用青森県産材/ヒバ(土台)、スギ(柱、床、腰壁、天井、建具)など。

## 光熱費抑えて快適生活 住まいの省エネ性が鍵

ご主人の話 阿保さんとお会いする前に、実はある住宅会社

生活のランニングコストを抑えてこそ住まいの快適さは得られる——。(有)キーポイントホームでは、県産材使用へのこだわりと並んで、もう一方の重点項目に省エネルギー性をあげる。毎月の光熱費が低く抑えられないのは、“燃費”の悪い車と同じで住宅性能が備わっていないからである。有田様邸は、断熱材を外壁の外と内とに二重に施し、換気と通風経路も配慮したうえ、さらにガスでお湯をつくる際に発電する最新の「エネファーム」(給湯発電)を採用する徹底ぶり。二酸化炭素(CO<sub>2</sub>)の排出を積極的に低減させたその家づくりが、弘前市初の「低炭素住宅」(注)として認定された。

と話を進めていまして。別にこちらが急いだけどもないのに、話がさっさと進んじゃって、仮契約まで交わしていました。とにかく向こうが急ぐんですよ。早く建てよう、って。仮契約後にそれまで対応していた営業マンから代わった技術担当者も、説明を聞いていても、どうも自分の家を建てるんだという実感がわいてきませんでした。

そう思い始めた頃に、図面を見ていて、家の中の風通しはどうなるんだろう、ってふと思ったんですよ。たとえば西側に窓が付いている、東側にも付いている、開けると風が通ることには分かるんですが、図面にはそういう位置に窓は付いていないし、それで、技術の方に聞いてみ



省エネ住宅での快適な生活を満喫されている有田様ご夫妻

たんですよ、風通しはどうなるんですか、って。そうしたら、まずは先に建てましょう、だって。嘩然としましたね。そんな家づくりってあるもんですか。奥様の話 わたしもそれの中で「？」だらけになりましたね。これじゃだめだから、いったん白紙に戻そうって思いました。自分の家だもの、もつとじつ



くり建てようつて。

ご主人の話 「急ぐことはありません、と相談に乗ってくれたのが阿保さん(阿保勝之社長)でした。初めてお会いしたのはキーポイントホームの展示場です。戸別配布の情報紙に展示場案内のチラシが入ってきて、写真に写っていた室内の「木の空間」に惹き込まれました。床も壁も天井も木。私も妻も一目で惹かれたのは、そういう木の見える家にしたいと願っていたからでしょう。さっそく出かけました。

床板の柔らかな感触が足裏に新鮮でした。話を進めていた住宅会社の家では表面はピカピカだけど堅くて冷たい合板



中古住宅を解体した木材を燃やしているという薪ストーブ



対面式の小上がりにあるカウンターは奥様のお気に入り

だったので、なおさら心地よく感じたのでしょうか。「県産のスギの無垢材ですよ」と説明してくれたのが阿保さんで、笑顔がいい人、というのが第一印象でしたね。

——その際に仮契約した住宅会社の話は？

阿保社長の話 有田様はその日は展示場を見学したただけで帰りましたが、すぐ次の日、また来られたんです。どっさり



キッチンや和室など隣接した部屋の隅々まで暖くなる薪ストーブのあるリビング



落ち着いた佇まいを見せるリビング続きの和室



スギ集成材のカウンターを勉強机にした子供部屋

資料を持ってね。仮契約したという住宅会社との打ち合わせに使われていた資料です。間取り図もいっぱいあって、これではお客様が混乱するばかり、と思うほどでした。その土地と、そこに暮らすご家族に合う間取りはたった一つしかないのです。それをじっくりと時間をかけて探し出しましょう、と提案させていただきます。

**給湯発電+薪ストーブ  
積極的に低炭素化実現**  
奥様の話 建て替える前、ここには中古住宅が建っていました。土地を確保するつもりで10年前に購入しておいたんです。主人が転勤族で、そのときは静岡に住んでいました。4年前に弘前に転勤になって、とりあえずその家に住んだのですが、窓

が昔のままの木枠だし、とても寒くて暮らせるものではありませんでした。家に入れば震えるくらい寒くて。今は逆にあつたかくて、天と地ですよ。

**阿保社長の話** 省エネルギーに重点を置く当社の方針と、有田様の意見がぴったり同じでした。住宅性能を高め、CO<sub>2</sub>を排出しない低炭素化に積極的に参加したい、と。ガスでお湯をつくるときに発電する「エネファーム」を採用したのも有田様の要望です。それと、薪ストーブ。今燃やしている薪は、中古住宅を解体した木材だそうです。究極のエコですね。

**奥様の話** キッチンと対面式の小上がりが入っています。カウンターの下が、掘り炬燵みたいに足のぼせるようになっていて、座っていても疲れないし、そこで宿題

をする息子と向き合いながら会話もできますしね。

**ご主人の話** 2階のホールから、プロジェクトで、吹き抜け越しに映画を映せるようになっています。白い壁がスクリーンです。観るのを楽しみにしてたんですが、家が完成しないうちに転勤になってしまいました。弘前にまた戻ってきたら映画鑑賞を堪能しよう思っています。いつになるかは分かりませんが、そのときまで楽しみは取っておきます。

【間取り】1階はリビングと、対面式のキッチン、ダイニング。リビングの続きに和室。2階は主寝室と子供部屋。ホールのコーナーにカウンターがあるスペースは「奥様の居場所」。

注：低炭素住宅  
建築物の新築等の計画が「省エネ法」に定めた省エネ基準に比べ、一次エネルギー（石油など自然界のエネルギー）消費量を10%以上低減するなど低炭素化を促進するための基準に適合しており、所管行政庁の認定を受けた建築物のこと。



吹き抜け部分の白い壁は、2階のホールからプロジェクターで映画を映すスクリーンにもなっている



有限会社 **キーポイントホーム**

弘前市泉野3丁目11-11  
TEL.0172-88-7705 FAX.0172-88-7706  
http://www.ki-pointhome.com/  
E-mail : staff@ki-pointhome.com







## 建築組パックス 有限会社

### 自分の山の木で建てる家 山主から木を買う新戦略

木を伐り出すのは山からばかりではない。住宅地からも、木は出る。郊外の、葛屋根にトタンをかぶせた大きな屋根が点在する昔ながらの住宅地。建築組パックス(南)の大西昇社長が案内してくれた広い屋敷にも、今は空家となった古家を囲んで樹齢100年近くの太いスギや広葉樹が立ち並んでいた。ちょうど林業業者が油圧シヨベルを使ってスギを倒している最中だった。強風で倒木が危険される老木を伐ってほしいと、大西氏が依頼されたのである。その土地の持ち主は、以前パックスで増築をしたユウザーだったとはいえ、工務店の分野でない伐採をなぜ請け負ったのか——。大西氏が新たな営業戦略として展開し始めた『自分の山の木で建てる家』に答えがあった。



通路に覆いかぶさるスギの老樹。これを伐ってほしい、と大西氏は頼まれた

### 目的は長尺ものを取る 曲がりものは大黒柱に

『あなたは山を持っていますか？ 先祖や祖父母が植えた木はありませんか？ もしあるなら、その木を使って思い出に残るマイホームを建てませんか——』

地元紙にそんな記事が載った。見出しは『自分の山の木で建てる家』。大西氏が自身で書

いた記事広告である。趣旨をこう話す。

**大西氏の話**——「先祖から受け継いだ山はあるにはあるが、木が二束三文だから誰も間伐とか手入れをしていないわけです。その山の木を、まるごと私が買い取ろうと考えたんです。乗り気になる人もあるのでは、と。山には他の現場にも使えそうな良い木が混じっている。そこを見越して買う。山主がその



木を自分で伐つて家を建ててもいいし、私も1棟の受注になるうえ木も手に入るし、伐採する業者にも小規模の仕事が発生する。三方良しですよ。手に余るような大き過ぎる山は対象外です。それと、単に山を売り

たいだけの場合も基本的には対象外。工務店が本業で、林業ではありませんからね」

記事広告を掲載し、反応を待っていたら、山主ではなく、10数年前にバックスで増築をしたユーザーから相談の電話がき

たのだった。屋敷の木を伐つてほしいがいくらくらいかかるだろうか、と。

下見に行くと、雑木林の中に使えそうな良い広葉樹があった。住宅地にも「小さな山」があつたのである。



屋敷の手前から奥へ順々に木を伐り倒していく

伐つてほしいという木は、狭い道路に面して立ち並んでいる10本ばかりのスギの老樹。幹の内部が腐つていけば台風で倒れて危険、と危惧しているのだ。幅2メートルほどの道に覆いかぶさるように枝を広げているこのスギが倒れでもしたら、通行人も危険だし、奥の家の車も通れなくなる。林業の業者に打診してみたら、目を丸めるほどの金額が返された。

そこで、大西氏が思う浮かんだらしい。森林組合などが伐つた木を大西氏が買って家を建てていることは知っている。やってきた大西氏が、思いがけない言葉をお口にした。屋敷内の木を、買う、という。

## 宮大工の技にこだわる 一本もので強度を高く

大西社長の話——「買うといつても、私が買い取るのは倒れそうなスギではなく、屋敷の奥に広がる雑木林です。そこに良い広葉樹がある。ざっと見ただけ





伐った丸太なら内部が見えるが、立木で買うとそれが確認できないので難しさがあるという

でもケヤキとかクリとか、オーク、カツラ、イタヤなどいろいろある。それらを建築用材として使うためです。買い取る金額で、スギを伐り倒す費用は捻出できるから持ち出しはない。

なぜ買うかという点、ロング、つまり長尺ものを取るのが最大の目的なのです。普通、業者は山で4メートルごとに玉切りをするが、立木の段階で買い取ってしまうと、6メートルに切ろうが8メートルにしようがこちらの自由で、だからロン



倒してみたら中に一部腐れがあった

グが取れるわけです。それを胴差回りや桁回りに使う。2本の木を継ぐより、一本もののほうが格段に強い。そこにこだわるのは、当社が宮大工の技を引き継ぐ家づくりをしているからです。完成してしまえば目に見えない部分だけど、そのこだわりを外してしまえば、パックスの家ではなくなるのです」

曲がりのあるケヤキは大黒柱にする。曲がりものはチップ工場に回されて市場に出回らないが、まるごと買うことで手に入るのだ。

**大西氏の話**——「伐採している途中にご近所の方々が見物にきて、なぜ伐っているのかとか、伐った木をどうするのかとか、話が広がりを見せてきています。これも一つの宣伝活動で、自分の山の木で建てたい、と注文に結び付けば、実ったということになります」

伐採の模様を、大西氏はブログ『こだわりの住まい日記』に毎日書き綴っている。



へ……ただ見物に見に来るだけでなく、自分のとも見て欲しいとなる。少し郊外になればたいていは家の周りに木を植えている。40〜50年過ぎれば大木になり手に負えなくなる。こういう場合はどこに頼むか知らないのが普通だ。どだい道が狭いから搬出の大型トラックも入れない。そういう所に大木が

残っている訳だ。伐っている現場の隣に、雑木林があった。見ると栗を植えてあった。土台用にちょうど良い。欲しいと目をつけていたところに地主が売りたいと来た。渡りに船とばかり春までに伐採予定を組んだ。『自分の山の木で建てる家』の取り組みに大西氏はすでに手応えを得ているようだ。



建築用材として出回らない曲がりのある広葉樹が大西氏のねらい



通路に面した箇所は木は倒すのは危険なので業者がロープを使って“吊るし切り”をする

**PACS**  
Perfect Architecture Consulting System

**建築組パックス有限会社**

八戸市大字新井田字石動木平1-1  
TEL.0178-25-6020 FAX.0178-25-5542  
http://www11.ocn.ne.jp/~pacs  
E-mail:pacs@sage.ocn.ne.jp



**建築組パックス  
有限会社**  
長期優良展示住宅

## 企業組合 県木住

ルポ

### チェーンソーでスギを伐り倒す 伊藤一夫様の大黒柱伐採



伊藤様が大黒柱に選んだ高さ22メートルのスギ

集合場所は、むつ市関根のコンビニ駐車場。朝9時に、伊藤一夫様ご家族、企業組合県木住の佐藤時彦代表と、これから近くのスギ林で行われるチェーンソー体験をサポートするスタッフらが集合した。自邸の大黒柱にするスギを、ご主人自らチェーンソーで伐り倒す「大黒柱伐採」。県木住の施主参加型家づくりの一つで、今回で38回目、52家族目となる。スギ林の前まで車で移動、怪我を避けるための保護ズボンを履き、ヘルメットを被る。

並ぶ立つスギの梢が炎天の陽射しを遮る林内へ入ると、チェーンソーと御神酒、塩を供え、全員で安全祈願。巖かな雰囲気が怖いのかママに抱き付いていた2歳のお嬢ちゃんが、今度は突如起こったチェーンソーのエンジン音にびっくり、丸めた目を見張っている。

### 「熊目撃」情報の放送 エンジン音が熊よけ

「これにします」

選んだスギに片手を添えて、

伊藤一夫様が振り向いた。真っ直ぐ伸び上がっている幹の直径は約50センチ、樹高約22メートル。このスギを、これからご主人がチェーンソーで伐り倒すのだ。伐倒したスギは人工乾燥機にかけ、今年(2014)の9月から野辺地で着工する自邸の現場に6寸(約18センチ)角、6メートルの通し柱として立つ。

初体験のチェーンソーの取り扱いは、事前に2時間ほど、講師の工藤秀和氏(青森県森林組合連合会調査役)から指導を受けた。エンジンをかけ、エンジン止め。基本動作に続き、丸太の輪切り。次は、Vの字に切る合わせ切り。「足の位置は動かさないこと。頭も動かさない。動かした分だけ切り口に狂いが生じる」と工藤講師がアドバイスする。

なかなかうまくいかない合わせ切りに首を捻りつつも熱心に何度も挑戦するご主人の顔は真剣そのもの。諦めず、納得するまでやり切るのがご主人の





チェーンソーと御神酒、塩を供え、安全祈願をする伊藤様ご一家



講師から指導を受けながら伐る。噴き出たオガ屑が膝に降りかかる

信条のようだ。  
 「熊の目撃情報が寄せられました」——頭上にアナウンスが流れた。チェーンソーを止めて耳を澄ます。「今日午前8時頃、(むつ市)北関根の……」。防災無線

で注意を呼びかけているのだ。スタッフの青森県森林組合下北木材流通センターの小泉所長によると、毎日目撃情報が流れているそうだ。工藤講師が再びチェーンソーのエンジンをかけ





伐り倒したスギの断面に名前を記す



やや緊張した面持ちでいよいよ本番。最初は「受け口」をつける

ると、熊よけ代わりに何度もエンジンジンを吹かした。

いよいよ本番。ご主人が、選んだスギに背中をあてがい、倒す方向を指さす。そのまま手を降ろしていき、身をかがめて、幹にチョークで線を逆さに引く。幹に向き直り、その縦の線を中心として、二等辺三角形を描く。その線をなぞって切るの

だ。

初めは、二等辺三角形の辺の部分切る。角度は45度。エンジンを吹かし、猛烈な勢いで回転するバー（刃の部分）を当てると、食い込んだ幹からオガ屑が噴き出した。斜めに切り下ろし、次に、底辺の部分を水平に切る。手で取り払って現れた切り口が『受け口』だ。受け口の中心線に対し直角に置いたチョークの方向へ木が倒れるのである。

### クサビ打ち込んで退避 狙った地点に倒れ込む

『受け口』の次は『追い口』。幹の後ろにまわったご主人が地面に片膝をつく。受け口の反対側に、クサビを打ち込むためにつける水平の切り口が追い口だ。受け口の底辺の位置より3センチほど上の部分を、離して平行に切る。同じ位置で切つてしまえば木がどっちに倒れるかわからない。離すことによって、残る部分ができる。そこが『つる』。この、つるが、傾き出した木



伐り倒したスギを前に、3月に完成予定の自宅に思いをはせる

を根元で引つ張って、倒れる速さと方向を調節してくれるのである。

エンジン音が高まる。ご主人がバーの先端を幹に突き入れ、水平に切り払う。講師が切り口に1本クサビを打ち込む。さらに残り半分を切り、そこにもう1本クサビを打つ。ご主人がハンマーで叩き込む。カーン、カーンと響く。揺れていた梢が、徐々に傾き出す。退避！ 傾き

が増し、狙った方向へ真上から覆いかぶさるように倒れ込んでいって、ドーンと跳ねた。生き物のように。

お嬢ちゃんを抱っこしながら後方から見守っていた奥様の目に感動が浮かんだ。  
佐藤代表の話——「家を建てるお施主様のうち、自分の現在の暮らしを我々に見せてくださる方と、そうでない方がいらっ

でいるか、どんな暮らしぶりをしていいのか、それを拝見できるとどんな家をつくったらよいか考えやすくなります。伊藤様は、オープンです。暮らしだけでなく、自分の心の裡も見せて、俺はこういう人間だからよろしく、という気持ち伝わってききました。とてもピュア(純粋)なお方です。

つい先日、つがる市で開いた完成見学会に来られたときに、ご主人から、『今夜、一緒に食事をしましょう』とお誘いを受けました。青森市内のショールームでキッチンなどの設備機器を見ることにしていたのですが、そのあとどこかで食事を、というわけです。アスパムの8階で食事していると、思いがけず目の前に花火が揚がったんです。高みから花火を観ながらの食事なんて初めてでした。きれいでしたねえ」

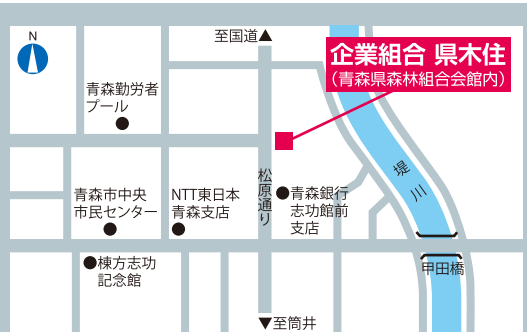
6寸角の大黒柱が立つ伊藤様邸は、来年(2015年)3月に完成予定である。

近くの山のもで家をつくる 企業組合

# 県木住

企業組合 県木住

青森市松原1丁目16-25(青森県森林組合会館内2F・3F)  
TEL.017-732-5333 FAX.017-732-5777  
http://www.kenmokuju.com E-mail: info@kenmokuju.com





## 企業組合 県木住

伊藤 一夫 様邸

ユーザー訪問

DATA

上北郡野辺地町

2015年3月竣工予定

■延べ床面積/33.0坪(109.31㎡)

■使用青森県産材/ヒバ(土台)、スギ(柱、大黒柱、床)、アカマツ(梁)など。



「12月6日、上棟吉日。ただいま

### 家づくりに参加 パパを見守るママと娘

伊藤一夫様が思い描いたわが家のイメージは、「小屋のような家」。外壁にスギ板を張った企業組合県木住の家がそれにぴったり合った、という。「家づくりに積極的に参加することで、工務店と一緒に作っていく実感を持っていたい」と意欲をみせる伊藤様に、佐藤時彦代表は、県木住の施工参加型メニューのフルコースを用意した。そのうちチェンソーでスギを伐り倒す大黒柱伐採と、外壁に張るスギ板の1回目塗装は終了した。

12月6日、いよいよ迎えた上棟日。この冬初の大雪となったが、伊藤様が伐倒したスギは6寸(約18センチ)角の大黒柱となって、雪の降りしきる天を指しながら立っていた。

より伊藤一夫様邸の新築上棟式を執り行います」



まず逢坂司棟梁が祭壇の前に立ち、拝礼する。清めの塩をまき、繁栄の願いを込めて米をまく。二拍手、一礼。続いて伊藤様が行う。今度は伊藤様がお嬢ちゃんを抱っこして奥様の隣に並んだ。3人いっしょに拝礼。お嬢ちゃんが手のひらを返すと、パパ(伊藤様)がのせてくれた米粒が祭壇のコンパネに跳ねて小さな音をたてた。



大雪の中、上棟式が執り行われた

野辺地町助佐小路。伊藤様邸の建築地である。伊藤様は生まれは岩手県釜石市だが、旧国鉄に勤めていた父親の転勤で小学時代を過ごした町が野辺地。思い出多いこの地に根を下ろすことに迷いはなかった。職場のあるむつ市から休日を訪れるのは空き地を探した。看板が目についた「売地」に縁があった。土地が決まれば次は家のプラン。建ててもらおうと決めていた県木住に設計を依頼した。





無事上棟式を終えて安堵の表情のご夫婦

薪ストーブが伊藤様邸のシンボルだ。リビングの一部のように室内に溶け込んだ玄関土間にストーブを設置するプランを、伊藤様も奥様も気に入った。薪・ペレット兼用のストーブは、釜石にある(株)石村工業のクラフトマン。「もちろん性能やデザインは嫁さんも気に入ってたけれど、それ以上に、選んだのは理屈じゃないんです」と伊藤様が照れ臭そうに話していた……。

祭壇に向かい奥様のご両親、大工、県木住の職員と拝礼が続く。背後に立つ伊藤様の視線が、ときおり祭壇わきの大黒柱へ向く。自らチェーンソーで伐り倒したスギだ。倒れ込んでいつ、地面からドーンと跳ね上がった瞬間を思い起こしているのかしれない。

8月2日。猛暑だった。防護服を身に着け、試し切りに挑戦した。横にしたスギ丸太をVの字にぐ合わせ切りをする。エンジンのかけたチェーンソーを持ち、右に45度傾けたバー(刃)を押し付けた。オガ屑を掻き出しながら唸り音をあげてバーが食い込んでいく。次は左に傾けて切る。切った部分を取り除くと、Vの字の切り口が現れた。伊藤様が小首を傾げたのは、切り口が左右対称になつていなかったからだ。何度も挑戦するが、なかなかうまくいかない。「今度はいいですね」と講師からOKが出ると、汗で光る顔にようやく笑みが浮かんだ。その



奥様とお嬢ちゃんが見守る中、伐採に挑む伊藤様

様子を、背後から奥様と2歳のお嬢ちゃんが見守っていた。

## 6メートルの通し柱 伊藤家を支え続ける

9月に県木住が開催したユーザー交流会「薪祭り」にも、伊藤様ご家族は参加した。いつも3人いっしょだ。薪積みや薪丸太投げなど5種目のうち、お嬢

ちゃんが活躍したのは薪積みアート。放射状に薪を置いてそれを太陽の光に見せたり、ハート形を描いたりするのだ。薪棚の前に膝をつき、チェンソー体験のときのように小首をかしげつつ挑戦するパパのそばへ、お嬢ちゃんが薪を運ぶ。下ろしてはまた取りに行く。お嬢ちゃんも、パパにならって「積極



薪積みアートに挑戦するパパへ薪を運ぶお嬢ちゃん



塗装終了後、助っ人に駆け付けた伊藤様の職場の仲間たちと記念写真



的に参加しているのだ。

ご家族は11月に行われたスギ板の1回目塗装にも参加した(2回目は上棟後の現場で行う)。ママと並んでお嬢ちゃんも刷毛で塗った。伊藤様の職場の仲間たちも助つ人に駆け付けた。CDプレーヤーから流れる小気味よいロックを聴きながら1枚1枚塗っていく。板は全部で580枚。9時から始まって

午後3時に完了。終わったぞー。仲間たちが記念撮影のカメラに向かって右手を突き上げた……

拝礼の次は「清めの儀」。建物の四隅に酒をかけ、塩、米をまく。最後に全員そろって拝礼し、上棟式はとどこおりなく終了。よろしくお願ひします、と伊藤様が大工たちに折詰めを手渡す。

「この家をしっかりと頼むぞー」伊藤様が語りかけるように大黒柱に片手をつく。樹齢50年のスギから生まれ変わった6メートルの通し柱が、これからは街なかで伊藤家を支えながら立ち続けていくのだ。

【間取り】1階、LDK。和室。水回り。2階は主寝室とフリースペース。オープンな家全体を新ストーブが暖める。

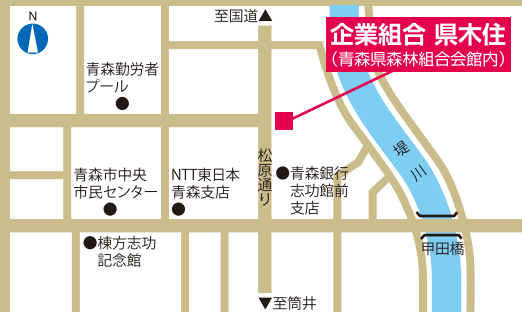


大黒柱に語りかけるように手をつく伊藤様

近くの山の木で家をつくる 企業組合  
**県木住**

企業組合 県木住

青森市松原1丁目16-25(青森県森林組合会館内2F・3F)  
TEL.017-732-5333 FAX.017-732-5777  
<http://www.kenmokuju.com> E-mail: info@kenmokuju.com



## 企業組合 県木住

三上 浩司 様邸

ユーザー訪問

DATA

弘前市八代町  
2014年2月竣工

■延べ床面積/35.5坪(114.27㎡)

■使用青森県産材/ヒバ(土台)、スギ(大黒柱、柱、床)、アカマツ(梁)など。



ご主人の話 初めてわが家に  
来られたお客さんは、玄関ドア

### 玄関土間に薪ストーブ 全室に暖かさ行き渡る

黒い板壁の家。屋根に煙突  
が立っている。——お馴染み  
の企業組合県木住(佐藤時彦  
代表)の「木の家」と、「薪ス  
トーブ」が融合した三上浩司  
様邸である。居間のテーブル  
にご家族4人と向き合って取  
材を始めると、香ばしい匂い  
が漂ってきた。奥様が薪ス  
トーブから取り出したアルミ  
ホイルの中身は、こんがり  
焼けた焼き芋だ。あ、ヤキイ  
モ! と叫んで3歳と2歳の  
お子さんが競って手をのば  
す。焼き芋の次は、ピザ。幼い  
姉弟が幸せいっぱい顔でほ  
おぼる。「暖かくおいしい」  
薪ストーブクッキングを楽し  
める家を実現するまでを、こ  
ちらも芋とピザをご馳走にな  
りながらうかがった。

を開けて、中に入ると、「あ、す  
みません」って、一歩下がるんで  
すよ。玄関土間に薪ストーブが  
あって、すぐ正面がキッチンだ  
から、お客さんにしてみれば、  
いきなり部屋の中に踏み込ん  
でしまったように錯覚するんで  
すね。びつくりさせて申しわけ  
ないような気はしますが、暖房  
が薪ストーブ1台なので、部屋  
を区切らないほうが効率が良  
く、室内全体に暖かさが行き渡  
るようにと設計してもらったの  
が今の間取りです。私も妻も、  
この大胆な開放感がとても気



薪ストーブクッキングを楽しむ三上様ご一家





薪ストーブの暖房効率を考えたという区切りのない開放的な空間



玄関のタタキに設置された薪ストーブ。心ゆくまで炎を眺める三上様

に入っています。  
 奥様の話 家を建てようと考え出したのは6年ほど前です。あちこち展示場とか見学会を見に行きました。薪ストーブのある家にしたかったです。

ど、そういう家はありませんでしたので、弘前市内の薪ストーブ店を訪ねてみたら、これまでの施工例の写真が貼られてあったんです。その中の、玄関のタタ



開放的な空間を引きしめている8寸角の大黒柱。三上様がチェンソーで伐倒したスギから製材した

キにストーブが置いてある写真に目がとまりました。そこに写っている、スギ床張りの部屋と、薪ストーブの雰囲気がつっても合っていました。その住宅を建てたのが県木住と知りました。ネットで検索して、ホー

ムページを開いてみると、地元の木を使った家づくりへのこだわりが綿々と書かれてありました。読んで、惹かれました。真摯な思いが伝わってきました。メールで資料請求しました。郵送で届くものと思ってい

たら、次の日の夜、資料を届けにくれたんです。その方が、佐藤さんでした。佐藤代表の話 「土間」と「薪ストーブ」が三上様の第一要望でした。さつそく薪ストーブのあるユーザー宅を1日がかかり

で3軒ご案内しました。そのうち、玄関土間に薪ストーブを設置したお宅の造りが三上様ご夫婦のいちばんのお気に入りだったのでした。そこから私の頭の中で、今のプランが膨らみ出ていきました。

ご主人の話 佐藤さんと知り合ったその年の暮れに、今のこの場所ではなく、別のところにある土地が見つかったので、さあ家を建てようということろまで進んだことがあったのですが、まだ機が熟していなかったようで、家づくりは一旦休止となりました。

佐藤代表の話 一旦話を取り止めになれば、家づくりから心が離れてしまうものですが、三上様は、「何年後かにはきつとお願いしますから」と言ってくださって、それからもうずっとお付き合いが続きました。「木の家」と「薪ストーブ」を実現したいという三上様の姿勢がぶれがなかったということですね。



## 便利な物は要らない 素朴な暮らしでいい

「家の外にいっぱい積み重ねられている薪はどこまで調達しましたか。」

「ご主人の話 「くべる部」(薪ストーブ)愛好会、関連1222ページ)のブログから情報を得るんです。たとえば、鶴田町の岩木川河川敷で木を切るから、「希



「くべる部」を通じて調達した薪



階段ホールのテーブルに飾っているのは、ご主人が朝野球で獲得したという津軽塗りのバット

望者はもらいに行ってく下さい」と。管轄する河川国道事務所からの情報を、くべる部を通じて発信してくれているんです。それを見て軽トラで頂戴に行くんですよ。

佐藤代表の話 三上様との家づくりで強く印象に残っているのは、今は一般的になっているカラーモニター画面付きのインターホンを、「うちには要りま

せん」と言ったことです。ただのブザーだけでいいと。さらに電動水抜き栓も、昔ながらの水抜き栓になりました。新しい物、便利な物が自分たちの生活にほんとうに必要なかを、きちんと見極めていらつしやる。基本的に、素朴な暮らしでいい、という考え方なのです。

三上様に限らず、チェンソーによる大黒柱伐採など当社の施主参加の家づくりに共感してくださったお客様は、「工夫しながら楽しく暮らしていこう」と、生活に対して前向きです。その象徴の一つが薪ストーブで、便利さの逆をいくような薪ストーブを導入する方は、皆さん生活力がたくましいです。

【間取り】1階はLDK、和室、水回り。居間に立つ8寸角の大黒柱が仕切りのない開放的な空間を引きしめている。2階は主寝室と、オープンスペースの子供部屋。階段ホールのテーブルに飾っている津軽塗りのバットは、ご主人が朝野球で活躍した賞品だそう。

近くの山の木で家をつくる 企業組合  
**県木住**

企業組合 県木住

青森市松原1丁目16-25(青森県森林組合会館内2F・3F)  
TEL.017-732-5333 FAX.017-732-5777  
http://www.kenmokuju.com E-mail: info@kenmokuju.com

